

# ひがしはら

平成26年10月31日  
学校だより 第6号  
杉並区立東原中学校

## “確かな成長が感じられた合唱祭”

校長 渡辺 宏

木枯らし1号が吹き、日増しに朝夕の寒さが身体にしっかり感じる季節を迎えました。学校では“東原フェスティバル”や“東原音楽祭”を終え、10月27日（月）に杉並公会堂という素晴らしい環境の中で文化的行事としては今年度最大である“合唱祭”を開催いたしました。

今年度は“**創 ～僕らの奏でる最後の唄～**”をテーマに練習を重ね、本番に備えてまいりました。地域よりご好評をいただいている“混声合唱団”や“吹奏楽部”の演奏。さらに他校にはない“学級歌合唱”。これら全ては本校の誇りであり自慢です。

文化的な活動が充実した今学期において、実行委員会を中心に1学期から準備を進めてきました。その成果として、生徒一人一人がクラスメイトと心を合わせ、“自分らしさ”と“東原らしさ”を携え、杉並公会堂のステージの上で堂々と披露してくれました。当日、会場で合唱を聞いていたすべての人達が、合唱に掛ける生徒の思いの強さとレベルの高さに、全身で感動を感じていらっしゃいました。

10月27日（月）に行われた本校の文化的象徴ともいえる行事の質の高さは、“**本校にかかわる全ての人の思いの結晶**”から生まれたといえます。誠実で微笑ましい1年生の歌声が会場を包み、「**3年生を超えたい**」という大迫力の2年生の合唱は、会場にいる誰もが生徒たちの“**合唱祭に掛けるひた向きな思い**”を感じたことでしょう。その思いは3年生の合唱にとても大きな期待となりました。

多くの卒業生が在学時代に、「**誇れる合唱をつくり上げよう**」と願い、誠実な思いを積み重ね今日に至っていますが、その伝統を、創立以来一番在籍数が少ない3年生が後輩につなげなくてはならない大きな使命があり、そのプレッシャーは相当なものでありました。しかし、本校生徒のリーダーである3年生は、先輩たちが大切に築いてきた東原中の伝統である合唱祭に掛ける熱い思いを、当日、最高の合唱で答えを出してくれました。

生徒たちの合唱はもとより、“混声合唱団”や“吹奏楽部”の演奏を聴くことで、「**素晴らしい合唱祭を楽しむことができました!**」と誰もが確信がもてたのではないのでしょうか。大成功を収めることができた学校行事となりました。行事を終えた各学年だよりは合唱祭特集号となっておりますが、内容は“合唱祭から何を学び、学んだものを今後の生き方にどのように生かすのか”です。

歌のもつパワーは、私たちに自然の脅威を乗り越えるだけのたくましさを教えてくれます。東日本が大震災を受け、日本だけでなく、その復興に向けた様々な支援活動が世界規模で展開されていますが、一番多く開催されているのが“歌”を通じたイベントではないのでしょうか。

合唱祭では、各クラス・各学年の一人一人の生徒がたくましく成長した、精一杯の歌声を素晴らしいホールに響き渡らせてくれました。今から来年が楽しみです。保護者・地域の皆さま、どうぞご期待くださいますようお願いいたします。



## “杉九まつり” 小学生や地域の人と一緒に楽しむことができました。

10月11日(土)午後、杉九小 PTA 主催の杉九まつりに、生徒会役員や有志を含めたくさんの生徒が参加し、盛り上げてくれました。吹奏楽部は、「残酷な天使のテーゼ」「アンパンのマーチ」「ルパン三世のテーマ」「サザエさんアラカルト」と最後に杉九小の校歌をアレンジして演奏し、大好評でした。その他には生徒会主催の「スーパーボールすくい」や生徒会と有志の「原中ソーラン」で小学生と一緒に楽しむことができました。11月22日(土)には、「ひがしはら DE まつり」が行われます。さらに進化した「原中ソーラン」を期待しています。



吹奏楽部の演奏



原中ソーラン



スーパーボールすくい

## “読書の秋” 図書室にはたくさんの新着図書が並びました！！



10月14日(火)から、読書に親しみ落ち着いて物事に取り組む姿勢を身につけさせるため、国語科が企画した読書週間が始まりました。毎朝8時25分から10分間、自分の好きな本を持参し静かに読んでいます。また、国語の授業では、図書室で学校司書の苗田先生から新しく入った本を紹介する携帯用のしおりが配られ、今まで以上に興味をもって取り組める環境が整っています。これを機会に読書の質を高め、分野も広げていければと思っています。

## “かんきょうアイデア展” の出展作品を紹介します！

夏休みの家庭科の課題から、「かんきょうアイデア展」のリサイクル部門に相応しい作品が学校の代表として「あんさんぶる荻窪」に展示されました。いらなくなったものを材料にして、アイデアとセンスで素敵な作品に生まれ変わりました。ゴミとして捨ててしまう前に、再利用できるかどうかを考えてみましょう。地球の環境を守ることにつながるだけでなく、自分のかくれた才能が見つかるかもしれません。



No.	作品名	年組	氏名
1	Tシャツから作ったバッグ	1年A組	三好 龍翔
2	ジーパンから作ったバッグ	1年A組	一柳 美結
3	ワンピースから作ったクッション、コサージュ、シュシュ	1年A組	鈴木 佑希
4	日本代表のユニフォームとジーパンから作ったスマホケース	1年B組	成田 陽亮
5	カゴ付ききんちゃく	1年B組	今関 央里
6	ポロシャツから作ったティッシュ入れ	1年B組	海老 愛実